

210301 和歌山—A ほかの状況

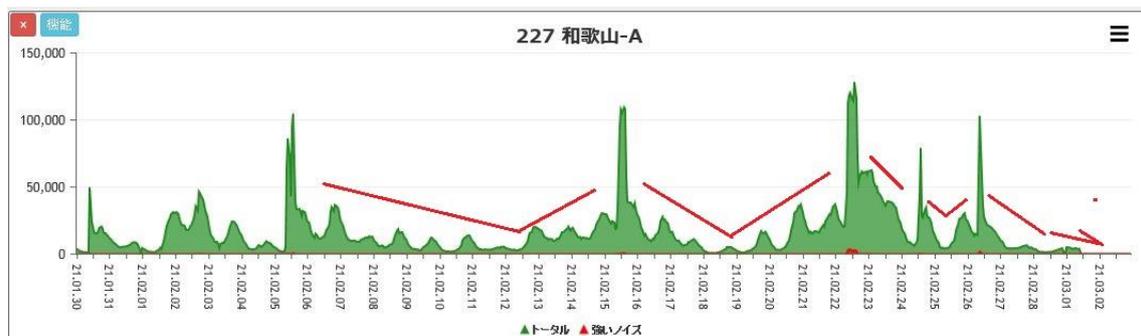


長く続いた和歌山—A のデータはいったん収束して 2 月 13 日の福島沖 M7.3 が発生しました。しかしその後もデータは再上昇することなく小さい山（と言っても MAX10 万以上）を繰り返してきていて数日前からまた減衰して収束らしい形を見せています。また 当初、同期していたように見え、その後別の動きそしてきた高知市介良のデータも いくつかのリバウンドの山を作って、ここへきて和歌山—A と同じタイミングで収束してきています。さらに九州の大分県、鹿児島県にも収束のようなデータが見られます。仮にこれらのデータが 1 つの事象を捉えている場合、高知を中心にした九州と紀伊半島の間の震源で M6 を超える大地震の可能性がまだ残っています。2 月 27 日から満月トリガーにかかっていることもあってこの地域の方はもうしばらくご注意ください。

和歌山—A 180 日間データ



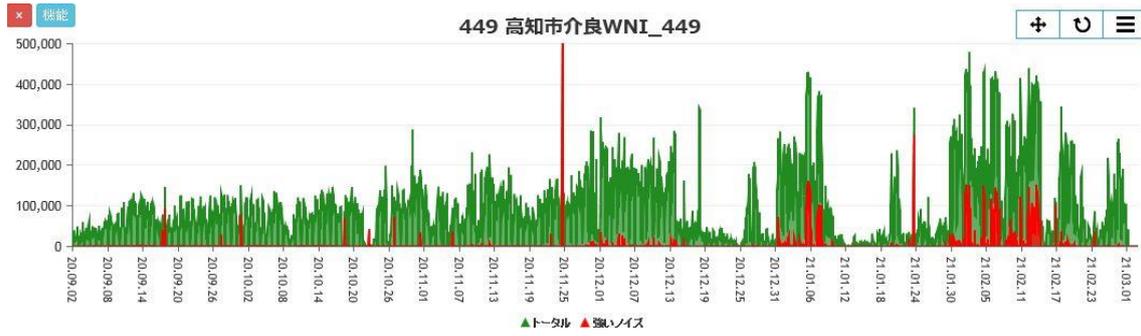
和歌山—A 30 日間データ



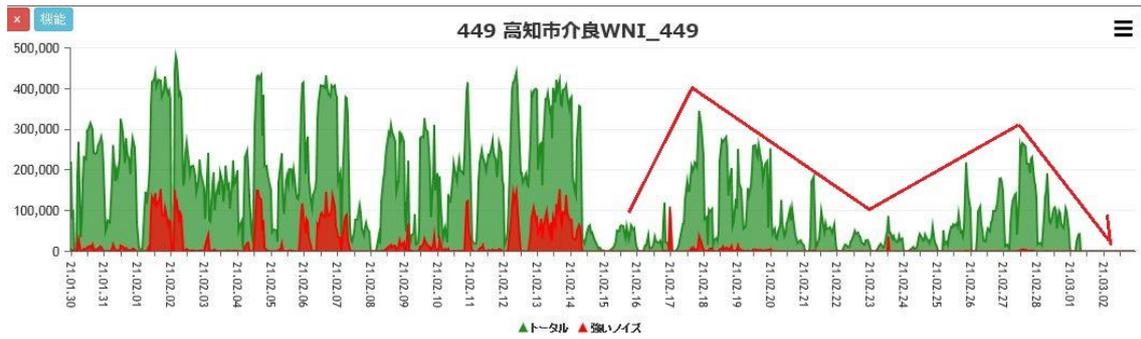
和歌山—A 15 日間データ



高知市介良 180日間データ



高知市介良 30日間データ



大分県 30日間データ



鹿児島 始良 15日間データ

